

【鳴門市行政評価】

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名	電子自治体情報化戦略推進事業		担当部署	企画総務部 情報化推進室	
総合計画体系			根拠法令 計画など	なし	
基本政策(大項目)	4	おおきく躍動 みんなで創る まちづくり	事業 期間	開始	平成 24 年度
政策(中項目)	1	全員参加でつくるまち なんと			終了
(小項目)	行財政運営				
施策	5	効率的・効果的な行財政運営の推進			
基本事業	5	ICTを活用した行政運営の推進			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 内部管理 事務事業担当課						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	鳴門市情報化計画「第4次なんとe-プラン」に基づき、自治体主導型の効果的、効率的な電子自治体の構築を目指します。						
事業計画	26年度に何を計画していたか	汎用機システムで稼働している残りの業務システムについても、平成25年度と同様に、ダウンサイジングに取り組みます。 また、第4次なんとe-プランの進捗状況を把握するため、各課に対して、進捗状況の中間調査を行います。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位
		基幹業務システムダウンサイジング達成率	95	100				%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	①平成26年度には汎用機で稼働していた残りの1業務システムのダウンサイジングを行った。また、平成26年7月に汎用機の完全撤去を行い、それまで一部汎用機との並行稼働を行っていた業務についても完全に新システムのみでの運用へと移行し、平成24年度の住基法改正への対応からスタートした基幹業務システムのダウンサイジングは完了した。これに伴い、各業務システム間の効率的な連携やサーバの一元管理等によるリスク軽減を図るなど、これまで以上に全庁的な視点でのICT戦略が必要不可欠であるため、情報化投資の一元管理体制の徹底を行った。 ②計画中間年度を迎える「第4次なんとe-プラン」については、進捗状況等を調査するとともに、「第5次なんとe-プラン(仮称)」策定に向けた事前準備を行った。 ③平成27年10月より施行される社会保障・税番号制度に向けた対応として、住基システム・税システムの改修及び統合宛名システムの構築をスタートさせた。						
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他							
指標名		25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	ダウンサイジングを行ったシステム数	16	1				
	2							
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	基幹業務システムダウンサイジング達成率		95	100	—	—	—	%
	目標達成率(実績/目標)			100.0	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり		事業全体の進捗状況			計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成26年度	当初予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	0	0
		決算額	0	0	0	0	0	0
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)		総人件費		総事業費	
		0.0	0.0		0		0	

事業費推移	年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度
	事業費	0	0	2,484	0	0
	うち一般財源	0	0	2,484	0	0
	人件費		0			
	総事業費	0	0	2,484	0	0

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		ダウンサイジングを行う上で、各業務システム間の効率的な連携やサーバの一元管理等によるリスク軽減などシステムの全体最適化を図り、有効性があったと考える。
	効率性	B:概ね効率的だった		関係各課と協力しながら、年度当初処理のタイミングでは汎用機との並行稼働を行うなど、効率的かつスムーズなシステム移行ができたと考える。
②成果に対する評価	指標名	基幹業務システムダウンサイジング達成率		基幹業務システムのダウンサイジングについては計画通りに全て完了させることができた。
	目標	100	%	
	実績	100	%	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		A		基幹業務システムのダウンサイジングについては、計画通りに完了させることができ、また、これにより社会保障・税番号制度への対応もスムーズにスタートさせることができた。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	汎用機システムがオープンシステムへ移行したことに伴い、また、現在システム改修等を進めている、社会保障・税番号制度においては、各業務システム間の連携が重要になることから、これまで以上に全庁的な視点でのICT戦略が必要不可欠である。 鳴門市公式ウェブサイトについては、本市の魅力を、より広く、積極的に発信していくとともに、より見やすく、スマートフォンなどの普及に対応するなど、「いつでも」「どこでも」情報収集しやすい環境を整備するため、全面リニューアルが必要であると考えている。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	①「情報化投資事前協議書」等による情報化投資の一元管理体制の徹底を図ることなどにより、ICTを事務改善・効率化のツールとして有効活用できるよう、全庁的な視点による効果的なICT投資の推進に努める。 ②ウェブサイトのリニューアルすることで、新規機能(ふりがな、読み上げ等)を追加したり、イラストを多く取り入れた見やすいトップページの構築や検索性の向上を図るとともに、スマートフォンなどによる操作性や閲覧性を向上させる。また、新たにシティプロモーションサイトを立ち上げ、本市の持つ、自然・文化・歴史・食・風土などの様々な魅力を広く積極的にPRしていきたいと考えている。			
	H28年度	①引き続き、全庁的な視点による効果的なICT投資の推進に努める。 ②「第4次なるとe-プラン」が計画最終年度を迎えることから、「第5次なるとe-プラン(仮称)」の策定を行う。			